

東北大

# きょうかん

発行  
東北大学教育学部  
関東地区同窓会

事務局  
〒187-0022  
東京都小平市  
上水本町 6-5-1-304  
(小林 昭文方)

電話・FAX 042-325-2819  
zelkoba304aki@kyf.biglobe.ne.jp

題字：江川 亮

## 「踏み出そう、一歩前へ！」 「行く手を見据え心を据えて」

ご挨拶  
このところ、国際社会ではテロや紛争の頻発、国内では国政をはじめ閉塞感の漂う社会状況からなかなか抜け出せない等、心休まらない日々が続いております。こうした中、会員の皆様にはご健勝で日々お過ごしのことと存じご同慶の至りです。

昨秋十一月、麗澤大学東京研究センターで開催された関東地区同窓会総会は、講師の出口利定東京学芸大学長・本部評議員工藤与志文教授（公務対応高橋学部長の代理）・仙台支部の渡邊宣隆支部長・關口隆元支部長をご来賓に迎え総勢三十六名の参加、充実した楽しいひと時でした。

「グローバル化時代の教員養成」と題した教育心理ご出身の出口先生のご講演は、国際化の進展に対応した教員養成の在り方や改革点を具体例でご教示いただき、刺激と示唆に富む時宜を得た内容でした。

恒例となった「三国一」での懇親会は、かつての仲間との思い出話や近況報告に花が咲き、歳を忘れて盛り上がりました。心から感謝です。

本年創立一一〇周年を迎えた母校の現況ですが、里見総長が中心となり推進している「ワールドクラスの



東北大学教育学部関東地区同窓会会長  
星 永揚（教育社会 66年卒）

大学への挑戦」を旗印とした活動が着実に実を結びつつあり、文科省より「指定国立大学法人」（東大・京大・東北大の三校）にも指定されました。また、この四月、農学部の新葉山新キャンパス移転に伴い、川内・青葉山一帯が世界に誇れる一大学園地帯に変貌しています（キャンパス内に地下鉄駅三駅存在）。同窓生として大いに誇らしく勇気づけられる出来事でした。皆様にも一度仙台・母校を訪れることをお勧めします。

創立一一〇周年を迎える東北大学の萩友会関東交流会が去る七月二十三日（日）に東京丸の内サピアタワーで開催されました。毎年参加者が増加傾向にあり今年は四四〇名（懇親会には一四〇名）が参加されたとの事です。



「東北大学一一〇周年関東萩友会報告」  
東北大学教育学部関東地区同窓会副会長  
堀籠 英夫（教育社会 61年卒）



里見総長による東北大学現況報告  
（於関東萩友会）

「最近のトピックス」  
青葉山新キャンパスが本年四月より本格稼働、六月には文部科学大臣より指定国立大学法人の指定を受けた。この指定を受けたのは東北大学の他は東大と京大のみである。「指定国立大学法人」とは、わが国の大学における教育水準の向上とイノベーション創出を図るため文科大臣が世

「memento mori」現代日本人の死生観」と題する講演がありました。

### 里見総長の大学の現状報告

界最高水準の教育研究活動の展開が相当程度見込まれる国立大学法人を指定するもの。指定を受けた大学は国内の競争環境の枠組みから出て、国際的な競争環境の中で世界の有力大学と伍していくことが求められるようになる。

また、里見総長就任時に掲げた目標の一つ「ワールドクラスへの飛躍」等は着実に実りつつあり、例えば世界の大学評価機関 T. H. E の二〇一七年世界大学ランキング日本版では東北大学は東大に次いで第二位にランクされました(京大は第三位)。他ホットなトピックス①片平キャンパスが平成二十九年度都市景観大賞特別賞受賞、②片平キャンパスの歴史的建造物が登録有形文化財に登録。

**青木副学長(秋友会代表理事)**

**「秋友会の活動報告」**

校友会↓秋友会の生い立ちと現状のお話がありました。会員は十五万人に及ぶ同窓生に加え、在校生、現職の教職員、そして在校生のご家族関係者一体となった大集団に成長しているとの事。ホームカミングデー、交流会開催など多岐にわたる活動状況の報告がありました。今年のホームカミングデーは九月三十日(土)〜十月一日(日)。

**記念講演**

**「地球温暖化と海洋」花輪公雄教授**

(大学院理学研究科・地球物理学)

産業革命後、人類が莫大な化石燃料を消費してきたことが原因で、地球温暖化が急速に進んでいる。もし地球に海が無かったらもっとすごい勢いで温暖化が進んでいたことでしょう。海は温暖化の元凶である CO<sub>2</sub> 等の温室効果気体を吸収し、さらに地表面の熱を吸収することで、温暖化を抑制している。しかしその反動で海水温は上昇し、海水の膨張により海面の高さも上昇し、また海水の酸性化が進んでいる。そのため海洋の生態系に大きな影響が出ている、まさに海は危機に直面している。経済優先と言ってバリ協定から離脱した、CO<sub>2</sub> 最大排出国の大統領に聞かせてやりたいお話であった。

教授の最後の結びの言葉が極めて印象的だったのでご紹介したい。

「温暖化問題は極めてグローバルな問題である。地球上の生きとし生けるものすべてが影響を受けると言う意味で、かつて経験したことのない厄介な問題なのである。温暖化問題に限らず、酸性雨などの環境汚染をはじめとする、様々な問題が叫ばれているなか、私は時々、死に急ぐ人類」などと思ってしまう。行きつ

く先を知りつつも、人類は破滅に向かつて急ぎ足で進んでいるように思えるからである。

しかし諦観は最もいけないことであろう。ここが踏ん張りどころ、と考えるべきであろう。このような状況を作り出したのが私たちであれば、解決するのも私たちであり解決できるのも私たちしかないのだと」

**「memento mori**

現代日本人の死生観」鈴木岩弓教授

(総長特命教授・宗教民俗学)

ラテン語の memento mori (死を想え) を改めて考えさせられました。

生者はいつの日か必ずや死の運命にあるが、死後どうなるのか? という疑問に対しては誰も答えを知らない。生者は誰も自己の「死」を経験できないからである。そのため他者の「死」を通じて正解の分からない「死」に対処する中、人間は様々な生活様式、即ち「死の文化」を創造し展開して社会変動の波に対峙してきた。とりわけ二十世紀後半から現代社会、「死の文化」はこれまで経験したことのないほど大きな変化の道を辿っている。「終活」「直葬」「送骨」「墓友」「墓じまい」などと言った単語は、そうした波に翻弄される人々の試行の足跡を示している。

超高齢多死社会の到来を前にして、八十歳を迎えた小生は複雑な気持ちで講演を拝聴した次第。

**「母校トピックスフォト」**

関東秋友会での里見総長報告レジュメから転載



「青葉山新キャンパス (81 万平米) (2017 年 4 月より本格稼働)」



「登録有形文化財：魯迅も学んだ階段教室他」

# 「同窓会本部・仙台支部から」



## 「教育学研究科の改組について」

今年の四月に教育学研究科長・教育学部長に就任した工藤と申します。

初めてですので、簡単に自己紹介いたします。私は昭和五十七年に東北大学教育学部に入學し、教育心理学を卒業後、大学院教育学研究科に進みました。その後、教育学部の助手として東北大に就職し十年ほど勤めた後、札幌の私立大学に移りました。平成二十一年に再び東北大に戻りまして、現在に至っています。このように、私は学生時代から今日まで、一時期を除けば、すべて東北大学教育学部・教育学研究科のお世話になっており、とても過言ではありません。このたび学部長職を拝命し、これまでの恩返しを少しでもできればと思っております。

さて、本学部・研究科の現状ですが、変革の時期を迎えております。大学院につきましては、教育情報学研究所・教育部との組織統合を進めてまいりましたが、この度、文部科学省より、正式に設置が認可されました。平成三十年度から新しい教育学研究科として生まれ変わる予定で

す。それに伴い、研究コースの再編も進めています。特に、教育の情報技術化やグローバル化の進展に対応できるように「教育情報アセスメントコース」と「グローバル共生教育論コース」を新設する予定です。また、「臨床心理学コース」では、我が国初の心理職の国家資格である「公認心理師」の受験資格取得に対応するためのカリキュラムを整備中です。これに伴いまして、学部のカリキュラムも一部改める予定です。なお、ただいまご紹介いたしました三つのコース以外にも、「生涯教育科学コース」「教育政策科学コース」「教育心理学コース」が新設されます。これらのコースでは、教育学の基盤となる哲学・社会学・行政学・心理学等のディシプリンを深く身につけることが求められます。このように、教育学研究科全体としては、時代が要請する最先端の教育的課題に取り組むコースと教育学の基盤となる学問を深く学ぶコースがともにそろっており、その意味では、バランスがとれた構成になっているのではないかと考えております。

最近の教育改革の動きにみられるように、大学教育もまた大きく変わることを求められています。そのような動きに対応しながらも、改めるべきところは改め、守るべきところは守っていく、この見極めが重要であると痛感しています。これからも東北大学教育学部・教育学研究科をご支援いただきますよう、お願い申し上げます。



昨年十一月の支部総会でかねて進めてきました会の名称変更とそれに伴う会則改正案等が承認され本年四月一日施行の運びとなりました。この変更については「きょうかん第三号」で、ねらいと想い等を関東地区の皆様にお知らせしましたが、改めて改定の趣旨と概要等をお示しし、関東地区の皆様にも会員候補者の推薦等をお願いしたいと考えました。もともと仙台支部は故塚本哲先生、生教育の教育研究科の想いを受けて昭和五十五年第一回の総会を開催しスタートしました。会員の枠は原則仙台圏に居住する同窓生と趣旨に賛同する者とされました。

その後三十七年間、年三回の役員会、顧問会、各委員会、総会・講演会・懇親会を中心に会の運営を進めてきました。その間残念ながら貴同窓会の設立以外他地区での支部設立の動きは聞こえてきません。

そこで支部設立四十年を二年後に控え、当時の想いを何とかしたく、まずは会員の範囲の枠を原則新潟県と東北六県に拡大した東北地区とする会則に改正し会員になり易い環境の整備を図りました。役員等は旧仙台支部の体制をそのまま維持する事にしました。活動の内容は今までと同様ですが、平成二十一年に立ち上げた学生支援事業（博士論文執筆支援）は寄金不足となった事から残金を学部同窓会に寄付し、本部の事業として継続して頂く事になりました。新たな支援事業については今後学部同窓会事務局と相談しながら検討し役員会に諮りたいと考えています。現在支部運営基金の一部を寄金とし、学部学生の学習支援事業を中心に内容を検討したいと思っております。これからの活動には多くの同窓生の方々のお力をお借りしなければなりません。現在支部理事を中心に会員候補者の推薦をお願いしています。が、関東地区の皆様にも東北地区の知り合いの方々をご推薦頂ければと

思っています。推薦する方のお名前・住所・入学年度等を事務局までお知らせいただければ幸いです。

〔連絡先〕東北支部事務局

事務局長 軍司 啓(学校教育68年卒)

仙台市青葉区西花苑二一七一八

電話070-5322-3322

e-mail hy0323seikaen@hb.tpl.jp



「先ず地域の二員として」  
永野 昌一(教育社会57年卒)

超高齢社会、少子社会、人口減少社会といった言葉は今日の日本を語る際の枕詞として語られている。そして、日本史上初めての事象として深刻さをもって受け止められている。

その対応は複雑だろうが我々高齢者ができることは何か。国は、更なる変化を見据えながら時代にふさわしい諸制度の改革の途上にある。そこで我々高齢者は、従来の支えが必要な世代という固定観念を捨て、社会保障充実の観点から互いに支え合う立場で能力と意欲を活かし、自立と共助活動を盛んにし、その中に生きがいを求める人も多くなると思われる。

一般的に現在の高齢者は元気だと言われ、その元気な姿に地域社会を支える姿と重ね合わせて周囲から期待されていることに気づいている人

も多いと思う。そこで、これまでの経験から身に着けた知識や技術を顔の見える地域の中で期待に応える努力をすることはどうであろうか。

現在、「二千二十五年問題」が話題とされている。戦後の昭和二十二年から二十四年頃にかけて誕生した世代が後期高齢者になる時である。この世代は今日の日本経済の発展に多大の貢献をした人々で、素晴らしい高齢者パワーである。このパワー集団を仲間とし、地域活動の輪を広げられるならば、更なる地域力の向上と高齢者の自立に貢献できることは間違いない。

高齢者の経済生活に関する意識調査(内務省)によれば最近ボランティア活動に参加している比率や今後参加を希望する比率も増加傾向にある。時間や場所に縛られず友人と一緒に参加できること、世代の相違を超え交流できることなどを明らかにしている。このことから今後高齢者の地域活動は地域の発展に益々期待されるであろう。

同窓生の声

第十四回総会・懇親会の欠欠返事葉書に添えられた同窓生のお言葉を掲載いたしました。(お名前の敬称は省略)

なお、懇親会の楽しい雰囲気を感じ取っていただくため、随所に当日のスナップ写真を挿入いたしました。

〔講師〕 東京学芸大学 学長 出口 利定

例年、出席者は大体何名位でしょうか?当日資料を用意したいと思えますのでお知らせください。(教育心理院・博 76年進学)

若林 滋

「きょうかん」第十三号ありがとうございました。三十五年間勤めた読売新聞社を一九九四年に定年になり、直ちに赤字の子会社社長を押し付けられ札幌に移転。いずれ鎌倉に帰るつもりで関東地区同窓会を退会しませんでした。傘寿を過ぎ心ならずも札幌を終のすみかと決めましたが、母校との縁をつなぎたく今後とも同会のお世話になります。北海道の近現代史を研究し関連著書を出版本年三月九冊目として「函館戦再考」を出しました。

皆様のご多幸を祈ります。(教育哲学59年卒 北海道札幌市在住)

木村 祐也

七十七歳になりました。耳が遠くなり、歩行も不自由なので、出席で

きません。十一月六日の盛会を祈る。(教育哲学63年卒 埼玉県川越市在住)

古橋 康子

相変わらず忙しく暮らしております。今年も年三回の有料上映会をしました。二本はドキュメンタリー作品。ドキュメンタリーは、考える道具、一人でも多くの方々に孫子の代まで、そしてずっと平和な日々を送ってもらいたいと願うこの頃です。(教育哲学69年卒 神奈川県横須賀市在住)

伊藤 忠篤

折角ご準備くださったのに欠席となり申し訳ありません。(教育哲学・院71年卒 千葉県柏市在住)

木戸 裕

ご案内ありがとうございます。当



総会受付 (美男美女がお出迎え)



来賓の工藤先生と共に

日、明治大学で研究会がありまして  
申し訳ありませんが、会場到着が  
ちよつと遅れるかもしれませんが。懇  
親会には間に合います。九月三日  
(土)に教育哲学研究室の学会に参  
加してきました。懐かしい人たちと  
旧交を温めることができました。皆  
様とお会いできますことを楽しみに  
しています。

(教育哲学74年卒 東京都板橋区在住)

家根 敏明

「老残の夢なお消えず秋の空」、  
ホームカミングデーのお誘いを頂い  
ております。まだ使い道があるのか  
な。

(教育社会57年卒 東京都世田谷区在住)

大寄 晋

ご案内ありがとうございます。

目下家内療養中のため出席できませ  
ん。皆様によりしく。

(教育社会58年卒 千葉県船橋市在住)

長谷川 嵩

相変わらずの合唱活動、もう三十  
数年になります。年末には、ヘンデ  
ル「メサイア」、ヴェーバー「第九」  
と、今年も歌います。

(教育社会59年卒 神奈川県川崎市在住)

吾田 壹明

後期高齢者に仲間入りし、仕事し  
ないのもワークと思ひ一日一日を大  
切にして過ごしています。

(教育社会63年卒 埼玉県狭山市在住)

中林 勝男

締め括りにもなりませんと思ひ  
立って「山の本」をまとめました。  
『一岳寸草心山影に逢はむ八十断  
章』創立四十五年の私立医科大学  
の経営改革に微力ながら精励してお  
ります。

(教育社会65年卒 東京都中野区在住)

佐久間 孝正

おたおたしながらも、何とか元氣  
にやっております。当日ですが、出  
先から直行するため講演途中での入  
室をお許しください。

(教育社会67年卒 東京都西東京市在住)

菅野 正

七十歳にしてホームページを作り  
ました。「定年・神田神保町HP」  
です。ぜひ一度ご覧ください。

(教育社会69年卒 東京都文京区在住)

野島 節子

健康で同窓会に出席出来る事が人  
生の目標、楽しみの一つとなってい  
ました。皆様どうぞよろしく。

(教育社会69年卒 千葉県千葉市在住)

山口 久子

四月に山形市から東京都に転居し、  
はじめて関東地区同窓会に参加させ  
て頂くのを楽しみにしております。

(教育社会69年卒 東京都大田区在住)

北館 博人

会社退職後五年目にはいりました。  
最近、家内がゴルフを始め、家族皆  
なでラウンドできる様になりました。  
健康の大事さを感じてきました。

(教育社会72年卒 千葉県浦安市在住)

市塚 守

韓国(釜山)滞在中のため出席で  
きません。盛会をお祈りします。

(教育社会73年卒 群馬県高崎市在住)

佐々木 博

ご盛会を祈念しております。小生  
現在六十七歳。毎日充実した日々を  
過しております。当日すでに先約が  
あり出席できません。悪しからずご  
了承下さい。

(教育社会73年卒 千葉県鎌ヶ谷市在住)

下坂 節男

最近ではボランティア活動に追われ  
る生活をすごしております。現職時  
代よりも多忙ですが、充実した生活  
をしています。盛会を祈念しており  
ます。

(教育社会74年卒 千葉県流山市在住)

津吹 茂



講師出口先生を囲んで「乾杯！」  
(あーいい雰囲気だー)

この六月末で会社員生活を終了し、現在は心身の再構築に向け動き始めたところ。欠席で申し訳ありませんが、ご盛会をお祈りしています。  
(教育社会74年卒 神奈川県相模原市在住)

石川 悦三郎

昨年七か月間治療とリハビリで入院生活を送り、一人で外出する事が難しくなり、今後欠席とさせていただきます。皆様のご健康をお祈り致します。

返信が遅くなりました事、お許し下さいませ。(奥様代筆)

(教育社会75年卒 埼玉県川口市在住)

齋藤 嘉明

(株)ブリジストンを早期退職し、横浜にある関連企業に転籍してこの十月で八年目に突入しました。



「先輩！さあグイート！」  
「コップが小さいなあー」

来年四月で六十五歳となりますが、小さな企業で経営も厳しく後継者もないため、あと一二年は頑張らざるを得ない状況です。

それでも毎週末は休むことなく、千葉県に所有する約四百平方メートルの畑に通い、野菜・果実だけは自給自足の生活を送っています。

(教育社会75年卒 東京都中央区在住)

井腰 伯子

会の運営ご苦労様です。

現在も週三日教壇に立ち、有意義な毎日になるよう心掛けております。なかなか総会・懇親会に出席出来ず残念です。皆様のご健勝をお祈り申し上げます。

(教育社会76年卒 栃木県佐野市在住)

菅谷 清

茨城の県立高校を定年退職して三年目となります。現在、茨城県立中等教育学校で教壇に立っております。週三日勤務ですが、だんだんきつくなってきました。さらに、ことしは、日本年金機構土浦年金事務所、月に一・二回程度お手伝いをしていきます。高校生への公的年金制度の啓発活動が主な仕事です。

(教育社会76年卒 茨城県古河市在住)

岩田 真

ご案内ありがとうございます。アカデミックなお話にふれられることを楽しみにしています。

(教育社会79年卒 埼玉県さいたま市在住)

小泉 信三

平成二十八年三月で、地方公務員も定年になりました。地元の公民館長として四年間勤務しました。今は自治会の役員をしています。自治会活動、コミュニティ活動に今までの経験を活かせればと思っております。

(教育社会79年卒 栃木県那須塩原市在住)

佐々木 浩

昨年四月、六十歳定年で会社を退職し、東京に戻り新たな会社で再スタートを切りました。家族とともに過ごす時間を楽しんでいます。

(教育社会80年卒 東京都練馬区在住)

田崎 正紀

家庭裁判所での勤務は、定年まで残すところ三年半となりました。次が最後の任地となりそうです。総会・懇親会の盛会をお祈りいたします。

(教育社会82年卒 栃木県小山市在住)

鈴木 英一

法務省の東京保護観察所に勤務し

ています。刑事政策と福祉政策の狭間をいかに埋めるか、大きな課題です。

(教育社会89年卒 埼玉県さいたま市在住)

赤間 啓介

十一月三日から六日まで信州長和町の学者村の山荘へ冬支度のため行っておりますので、残念ながら総会に参加できません。

今年はふるさとの山蔵王へ東北大学の会総会とヒュッテ祭は二度行きましたが、ヒュッテ祭は行きも帰りも雨にたたられ苦労しました。

(事務局・赤間様には、その後日程を調整されご出席いただきました)

(教育行政55年卒 栃木県小山市在住)

佐倉 三雄

二年ほど前から足の調子が悪く遠距離の歩行が困難なため、せつかくのご案内をいただいたのに参加できません。皆様によりしくお伝え下さい。

(教育行政61年卒 神奈川県横浜市の在住)

新井 雄啓

毎回ご連絡等有難うございます。今回も所用の為参加できません。盛会を祈念致します。

(教育行政63年卒 埼玉県越生町在住)

◇◇◇◇◇

高橋 靖直

十一月四日～七日まで愛媛大学で開催の日本教員養成協議会に出席のため欠席いたします。二十五日間係ってきた会議で一年前に日程が決定してしまいました。同窓会の盛会を祈ります。

(教育行政'66年卒 神奈川県相模原市在住)

◇◇◇◇◇

望月 久

古稀を越えて二年が経ち、運転免許の更新で高齢者講習を受講しました。今回の更新時には更に厳しくなることでしょうか。体調維持に心掛けながら、好奇心だけは失わぬよう努めたいと思う日々です。

(教育行政'67年卒 東京都武蔵野市在住)

◇◇◇◇◇

藤枝 富士子

残念ながら腰の骨を骨折し入院しているので欠席させて頂き下さい。来年は是非と思っています。こんなことで返事が遅れすみません。

(教育行政'68年卒 埼玉県さいたま市在住)

◇◇◇◇◇

熊谷 晃

JICA定年退職後、桐朋学園大学音楽学部入学して音楽等を四年間学び、昨年十一月にリサイタルで「詩

人の恋」を歌いました。地元中心に合唱指導、音楽発表会、発声指導等をやっています。

(教育行政'69年卒 東京都国分寺市在住)

◇◇◇◇◇

羽尾 和夫

市の交通指導員として来期で三期目を迎えます。毎朝、小学生と接しており、地区の小中学校の学校評議員もやっています。教員をリタイアしても学校との縁は持っています。

なお、同時期仙台台学生会館「第二十一回北山天狗岩の会総会」出席と重なりますので、残念ながら欠席させていただきます。遅れまして申し訳ありません。

(教育行政'69年卒 群馬県伊勢崎市在住)

◇◇◇◇◇

芦澤 薫

「山梨クインビーズ(QB)」という女子バスケットチームの運営に携っています。三年ぶりにトップリーグ(Wリーグ)の舞台に復帰しました。当日はリーグ戦があるため欠席させて頂きます。

ご盛会をお祈りしています。

(教育行政'71年卒 山梨県笛吹市在住)

◇◇◇◇◇

福田 昭夫

安倍独裁政権の暴走にストップをかけるため頑張っていますが、国民

の皆様へ真実や事実を伝える事ができずに苦労しています。でも、あきらめません。

(教育行政'71年卒 栃木県日光市在住)

◇◇◇◇◇

銭谷 眞美

大変残念ですが海外出張中の為出席が叶いません。盛会を祈念致しております。

(教育行政'73年卒 千葉県松戸市在住)

◇◇◇◇◇

大桃 敏行

東京大学教育学部に勤務しております。大学の用務と重なり、欠席いたします。盛会をお祈り致します。

(教育行政'77年卒 東京都文京区在住)

◇◇◇◇◇

猪瀬 幸夫

現在、茨城県立境高等学校にて、英語科教諭をしております。あと、数カ月で定年退職になります。今年、ぜひ出席しようと思っております。

(教育行政'80年卒 茨城県古河市在住)

◇◇◇◇◇

鈴木 晶子

現在、スウェーデン系の機械製造会社で人事の仕事をしています。学生さんの海外インターン候補を探すため、今年五月に東北大川内キャン

パスで説明に行ってきました。素晴らしく近代的なキャンパスになっていてびっくりでした。

(教育行政'86年卒 東京都大田区在住)

◇◇◇◇◇

橋本 有子

主人が経営している会社で仕事をしております。忙しい毎日です。社員教育など大学で学んだことを日々生かしつつ精進しております。

(教育行政'86年卒 栃木県大田原市在住)

◇◇◇◇◇

長沼 真吾

auのコマーシャルで、Google Lunar XPRIZEに挑戦するHAKUTOを知りました。そのHAKUTOの中で、「東北大学吉田研究室」が中心メンバーとして活躍していることも、つい最近知りました。



日本の教育をめぐる盛りが上がりました

母校の活躍に胸を躍らせています。

(教育行政 88 年卒 東京都八王子市在住)

小川 慎介

学生時代に訪れた龍泉洞の被害に心を痛めております。たまに訪れる仙台は、変わる街並みと変わらない風景が混在して少し複雑な気持ちになります。

同窓会には仕事の都合で参加出来ませんが、皆々様のご多幸と会の盛況を心から願っております。

(教育行政 89 年卒 神奈川県相模原市在住)

奥泉 英夫

七十八歳になりました。週休六日の生活になっています。その生活の中で最も大切にしているのは、朝六時半からのラジオ体操です。十分間身体を動かして全身を目覚めさせて、



今日は最高!

二時間程度の畑での野菜栽培を行っています。今後いつまで続けられるかはつきりませんが、あと十年を目標にしています。よろしくお願いたします。

(教育心理 61 年卒 群馬県前橋市在住)

田崎 美津江

七十二歳で調停委員の仕事も卒業し、現在はコーラスをやっています。混声は群響合唱団、女性は近くでやっています。

(教育心理 61 年卒 群馬県前橋市在住)

菅田 美紀子

「きょうかん」第十三号拜読致しました。「教育学部の最近の動静」を興味深く読みました。

又、二〇一六年九月五日に出版された川島隆太先生の「やっつてはいけない脳の習慣」の衝撃レポートを読み、今の子供の実態を知る一助になっています。夏には憲法学界の大御所樋口陽一先生の講習を聞き、終わってからお話ししました。大学時代の直接お世話になった先生たちと再会するのは生きている証しです。

(教育心理 67 年卒 千葉県柏市在住)

寺嶋 洋平・順子

すでに別の用事が予定されており

ますので欠席とさせていただきます。会のますますのご発展をお祈りいたします。

(教育心理 75 年卒 千葉県習志野市在住)

大室 充子

毎回ご案内いただきありがとうございます。小学校長として勤務しております。都合で出席できませんが、同窓会の盛会をお祈りいたします。

(教育心理 84 年卒 栃木県大田原市在住)

小滝 威

当日所用のため出席できません。ご盛会をお祈りいたします。

(教育心理 85 年卒 栃木県大田原市在住)

吉田 恵子

大学卒業後に、高校に国語科教諭として勤務してから、三十一年が経ちました。今年の四月から、定時制高校に勤めています。皆々様のご活躍と会の隆盛をお祈りしています。

(教育心理 86 年卒 山梨県甲府市在住)

野村 正宣

初めての出席で、不慣れな者ですが、宜しくお願い申し上げます。

(教育心理 89 年卒 東京都品川区在住)

初めて参加させていただきます。よろしくお願いたします。

(教育心理 90 年卒 東京都八王子市在住)

鈴木 貞夫

満八十歳となり、脚・腰も弱ってきました。遠出はなるべく控えるようにしています。総会の盛会を祈っています。

(心身障害学 60 年卒)

坂垣 幸治

神社の役員をしています。十一月六日は定例会がありますので欠席いたします。

(心身障害学 62 年卒 神奈川県平塚市在住)

高橋 敏行

芸術の秋、スポーツの秋、食欲の秋、イベントも多く活気強く、健康に注意して生活しましょう。

(心身障害学 62 年卒 東京都町田市在住)

郷家 和子

予定があり、残念ですが欠席します。大学や専門学校で非常勤講師を続けていますが、週一〜二回程度なので、のんびりと日々を過ごしています。皆様のご活躍を祈ります。

(心身障害学 69 年卒 東京都練馬区在住)



落合 俊郎

残念ながら出席できません。関東・中国・関西と四十年間移動し、東北が恋しくなってきました。生まれ故郷を志向するのは年を取った証拠ですね。

(心身障害学75年卒 大阪府大阪市在住)

山森 伸子

四十年前に松野研究室の一員となりました。(ならせていただきました。自分の原点」と感謝しております。当時は知能欠陥学でした。

(心身障害学78年卒 神奈川県川崎市在住)

鷲尾 純一

講師が出口利定さんとのことでは非とも参加したいと思いましたが、所用のため欠席致します。

(心身障害学80年卒 新潟県長岡市在住)

安田 養次郎

八十六歳の高齢となりましたが、何とか元気に暮らしております。

(学校教育54年卒 東京都三鷹市在住)

菊地 明

地域の施設や学校のボランティアに夢中になっていきます。

(学校教育55年卒 東京都東大和市在住)

加藤 万喜子

永い間お世話になりましたが退会いたします。ますますのご発展をお祈りしております。

(学校教育60年卒 東京都調布市在住)

【事務局より】

了解しました。長い間ご支援有難うございました。お元気で過ごしてください。

高橋 睦人

二〇一三年、講師の仕事を辞し、のんびりとした日々を過ごしています。同窓会のご発展を祈っています。

(学校教育60年卒 東京都杉並区在住)

永井 勝利

皆様のご健勝をお祈り申し上げます。私立幼稚園を経営しておりますが、今年の園児募集も順調に行きました。

(学校教育61年卒 東京都立川市在住)

松本 正敏

欠席で申し訳ありません。昨年後期高齢者の仲間入りをしました。東京に一人で行くことも無くなりました。ご盛会を祈念致します。

(学校教育63年卒 栃木県茂木町在住)

渡辺 成男

後期高齢者の仲間入り、絵筆を持ち、知人・友人との談笑が中心の日々です。

(学校教育63年卒 埼玉県さいたま市在住)

後藤 光

平成二十八年三月末をもって東北大学を退任し、目下、企業社員のメンタルヘルス(個別カウンセリング)を担当しています。

(学校教育64年卒 神奈川県藤沢市在住)

今野 正保

体調が悪いので退会いたします。お許しください。

(学校教育66年卒 東京都世田谷区在住)

石森 ミネ子



懐かしい同期勢揃い

いつもお世話になり有難うございます。会費を納入して安心していただきます。出欠票をうっかりし、遅くなり申し訳ありません。

(学校教育68年卒 東京都墨田区在住)

富永 和彦

学校を定年退職後、資料館や教育委員会に勤めましたが、今は仕事を止めて、今までやりたくてもやれなかったことや昔やったことを再開しています。登山・スキー・卓球・マインドリン・旅行等楽しんでやっています。

(学校教育68年卒 静岡県函南町在住)

星 重昭

お陰様で元気に活動させて頂いております。有りがたいことです。また皆様にお会いするのを楽しみにしております。

(学校教育69年卒 神奈川県横浜市在住)

楽しきかな我が人生!

「あの頃の仙台  
回想の六十年」

家根 敏明 (教育社会 57年卒)

今年は大学創立百十周年となるが、その第五十期生として卒業した小生には卒業六十年の節目となり、感慨が深い。戦後十年に満たない昭和

二十八年の春、北七番丁の学生寮に入寮した日に歴史が始まる。当時の北七通りは米軍の軍用トラックが砂塵を巻き上げて往来し、戦後の気配が残る街の暮れ時は亜炭の臭気が立ち込めて新入の寂寥感が心を塞いだ。寮生は百名前後で、各学部生が同居生活は奨学金を基本に夜警や家庭教師等の定収入と、掲示板に募集するバイトの臨時収入で維持された。厳寒の米軍苦竹キャンプの資材警備は苛酷であったし、夏は野球場のアイス売りに、溶けたアイスの代金を日当と相殺される悲劇にも出あった。青春の一齣である。

片平丁のゼミは教育社会学社会教育学を専攻した。三陸の漁村調査や村落調査に参加し、調査終了の打ち上げ会は教官学生を問わず談論あり余興ありで解放感に浸った。

片平丁の二年間はゼミと卒論と就活の多忙が錯綜した。四年次に入るや先ず就活の情報収集が開幕した。マスコミを志望し、当時新局の開局相次ぐ民間放送に注目をした。テレビ受信機はなお国内で十万台に満たず、ラジオは全家庭に普及していて媒体力は安定していた。在京ラジオの基幹三局に目標を定め、受験日程を調整した。九月に試験は開始され数次の学科と面接を繰り返し、十月

半ば最終面接を終了した一局から合格通知の報が届けられた。

主任の竹内教授にその旨を報告した翌日、封書一通を麻布の洪沢敬三事務所に自身で届けるようにと託された。幣原内閣の蔵相の後、公職追放となった洪沢氏が常民文化研究会を主宰して竹内教授がその会員であり、今回小生の採用会社の会長が洪沢氏であることから教授の愛情で急遽挨拶状を託して下さったのである。残念ながら洪沢氏はその時移動大使でブラジルに滞在中で帰国は半年先と判明し、小生の直接挨拶はすっかり後日のものとなってしまった。

「教養部と明善寮」

小林 昭文(教育哲学 76年生)

教育学部を卒業してから四十年以上経ちました。入学したのは昭和46(71)年の「ヨンロク生」です。70年安保闘争以降、川内の教養部ではヘルメット姿の各セクトの学生たちが立て看を背に大声を張り上げていました。教室はロックアウトされ、構内のあちこちでクラス集会が開かれました。定期試験では抗議のボイコットもあり、例えば医学部(2000)では100名中99名が留年し、東北大の大量留年は大きな問題となりました。私はいわゆるノンポリでしたが、自身の不勉強を棚に上げ、「ボイコット」

の影響で留年したことにしました。

教養部での三年間は明善寮で過ごしました。一歩足を踏み入れるとそこは旧制二高の世界。新歓コンパで潰された翌日がオリエンテーション。教室最後尾の席にどうにかたどり着くと、前で担任の先生が二人になり一人一人になったり。数か月は「酒」という字を見ただけで具合が悪くなりました。夜は寮内を「ストーム」。窓ガラスがずいぶん割れて翌朝寢床のわきに雪が積もっていたことも。「寮雨」で建物の脇には草が生えずきれいになっていたこと。廊下に焼け焦げがあるので聞けば昔寮生が寒いのでたき火をした跡とのこと。因みに明善寮は木造で、消防署から危険家屋に指定されていました。ドツペリ、メツチェン、ゲルピンなどの明善語が生きていたこと。自治寮だったので、運営はほとんどすべて学生たちに任されていました。寮生大会では、寮生活の問題の改善からときに国家、世界に至るまで熱心な議論が夜更けまで続くこともありました。全寮生が太鼓を打ち鳴らし、寮歌を歌いながら、一升瓶ぶら下げ、青葉城址まで繰り出したのも懐かしい思い出です。

定年退職の前年から三年間、教育情報学の大学院に居りました。場所は

は、学部生として通った教育学部が移転した後の建物でした。これも何かの縁。四十数年ぶりに古巣に戻り、あまり学校に行かなかつた分の罪滅ぼしができたかなと思っっています。

「墓を想えば……」

笹川 智恵子(教育哲学 69年生)

仙台は北山、名刹輪王寺から東へ二つ目の臨濟宗寛範寺。伊達政宗の生母保春院の墓があり、江戸時代は北山五山に数えられた。

山門を仰ぎながら広い石段をのぼっていくと、左手のかつては寺域を示したと思われる木々に背後を守られた一角に、笹川本家の墓と巨大な石碑が建っている(分家のわが家の墓はその下方)。石碑には「日本基督正教会長司祭 彼得笹川定吉師墓」。「彼得」はペテロで、本家の祖はギリシヤ正教の司祭だったのである。

幕末の混乱期、仙台藩を脱藩した浪士らは箱館で、ロシア領事館つき司祭として赴任していたニコライに出会う。彼の教えを受けたなか定吉もいた。明治になってから仲間とともに仙台へ戻り、布教禁止が解かれると大阪をはじめ各地で布教活動を展開、聖堂も建立した。それが東二番町に異空間の趣でたえずびざンチン様式の教会である。その定吉の墓がなぜ北山に? こ



彼得笹川定吉の墓と  
笹川家本家の墓

れは言い伝えにちかひものだが、一族が親族が覚範寺の住職に相談に行つたところ、うちのすぐ外でよければ土地を貸しましょう、ということになったとか。なんと懐の深い！風土ゆえか、人柄ゆえか。  
わが家は夫の祖母が洗礼を受けたのが最後であるが、祖母の墓と夫の両親の墓が同じ敷地に仲良く並んでいる。墓参のときは本家の墓と、文化財といつてもおかしくない石碑にも花を手向ける。  
今年七月の萩友会関東交流会での講演のひとつに、「メント・モリ」があった。残念ながら参加できなかったが、どんな「死生観」が語られたのか。「死を想え」が歴史を想うことにつながっていく、今後の墓の守りかたにますます悩まされることになっている。

動を支えた新宿中村屋の創業者・馬黒光とはいとこである。

「平成二十九年、夏雑感」  
星 重昭（学校教育、69年卒）

七月末、仰せつかつて初めての「きょうかん」役員会に出席させて頂いた。学士会館も初、赤絨毯も、縁が薄い？小生にはちよつぱり緊張、実際は、地下奥の東北大同窓会東京連絡事務所での会、星会長以下、先輩同輩諸氏のご親切でなんとか初役目果たし、と言つても、先輩皆様方の発言をお聞きし感心のみ、今後お役に立つことが出来るか…の不安も少々過ぎつた。懇親会参加では話題も広がり、楽しい夏夜になったが、特に盛り上がった一つ「魂入無骨墓地」、については次の機会にでもと思う。

同窓と言えば、昨秋の同窓会で菅田美紀子女史と縁が出来たのは幸い、音楽生業の小生、縁があり邦楽尺八も師範、女史は箏・琴師範でもあった。生田流の中心の一つ筑紫派だったのは良縁奇縁。大震災後、同派で名高い中川歌雪社中との幾多の共演縁の小生、その後女史は二度、小職の故郷復興祈念会にも御出で下さり、今後共演の楽しみが増した。実は、同期の仙台支部桜井善悟君の奥様は筑紫派重鎮、宮城での中川師共演を

待たれる。近年、桜井君は小生と同門、都山流尺八研鑽を始めた。先週末、姫路で同流の年次夏期講習会があり、櫻井夫妻と大縁の宮澤宮城県支部長他親交が叶つた。師は大震災三年後の七ヶ浜町国際村での会に三名で御出で下さり後、再会都度、首都圏被災地絆音結び夢を語らせて頂く。

さて理事会翌々日は星の子楽団中川社中、弦と絃、第三回、一小品にふれよう。…楽しきのびやかな夏、現実、貴方は居らず、想い出を振り返り、また静かに待つ、…優しい大きな大洋のうねり、…南国、月の光、濡れた椰子の葉陰、…嗚呼、素敵な夏の夢：筑紫歌都子昭和二十二年作。終戦七十二年が経つても、想いを馳せたい八月だ。



〔GUIDE MAP〕

〔「東北大学大学院教育研究科案内」2000年版から転載〕

新校友歌 「緑の丘」

シンガーソングライターとして有名な小田和正さん（工学部建築学科卒）作詞作曲の「緑の丘」が校友歌に加わり、CD・オルゴールも発売。なだらかな坂道を上れば川内  
広瀬川から幾重にもかさなる緑の丘

目に浮かぶは忘れ得ぬ立ち並ぶ白い教室  
すべてのことがそこから始まつて行った

そしてまた友たちと語らうは遙かな夢  
果てしなく道は続くともいつの日かそこへ行く

明けてゆく青葉山にかけがえのない今を想う  
僕らの時は限りなくゆくり流れてる

この街に愛されてこの街を愛して  
我が青春の日々風わたる東北大

やがてみんなそれぞれの目指す場所へ旅立つて行き  
そしていつか社の都仙台はふるさとになって行く

CD・オルゴールの問い合わせ先  
東北大学総務企画部広報課校友係

電話 022-1217-15059  
メール alumni@grp.tohoku.ac.jp

### 事務局ノートから

(一) 第十四期役員 (○印新任  
(今期のお世話役です。))

会長 星 永揚 (社会'66)  
副会長 堀籠 英夫 (社会'61)  
阿部 孝 (行政'69)  
事務局長 小林 昭文 (哲学'76)  
幹事 田沢 良介 (心障'62)  
横館 厚太 (学校'67)  
石森ミネ子 (学校'68)  
小玉 幸彦 (社会'68)  
小熊 順子 (心理'69)  
○阪内 宏一 (行政'69)  
笹川智恵子 (哲学'69)  
徳田 英明 (心理'69)  
○星 重昭 (学校'69)  
木戸 裕 (哲学'74)  
細渕 富夫 (心障'79)  
長沼 真吾 (行政'88)  
○野村 正宣 (心理'89)  
小林 巖 (心障'92)  
菊谷 邦雄 (社会'60)  
高橋 敏行 (心障'62)  
江川 亮 (心理'55)  
大曾根良衛 (哲学'55)  
菊地 明 (学校'55)  
小林幸一郎 (社会'55)  
越河 六郎 (心理'57)  
家根 敏明 (社会'57)  
荒木 廣 (行政'58)

(二) 会員の訃報

前期から今期にかけて次の方々  
逝去されました。心からお悔やみ申  
し上げご冥福をお祈りいたします。

佐藤陸郎様 (学校) 二〇一五年  
菅原英行様 (行政) 二〇一五年九月  
磯部裕子様 (心理) 二〇一六年一月  
大村 實様 (心理) 二〇一六年一月  
榎 正幸様 (社会) 二〇一六年六月  
大野 忠様 (社会) 二〇一六年八月  
(三) 第一回役員会の概況報告

(実施日) 平成二十九年七月二十八日  
(会場) 学士会館東北大東京連絡事務所  
(出席者) 星(永)・堀籠・小林・石  
森・小熊・阪内・笹川・星  
森・横館・高橋 以上十名  
(内容) ①第十四回総会・懇親会実  
施状況報告と確認。

②第十四期維持会費納入状  
況の報告 (七月時点で  
百三十八名・前期同時期  
対比で微減)。未納入会  
員には、臨時増刊号送付  
時に協力依頼文書を同封  
することとした。

③第十四期活動状況報告と  
今後の事業予定の確認。

\*臨時増刊号の発行  
\*本部・仙台支部との交  
流の活性化について他

(四) 会員拡大活動にご協力を

関東支部には、本年九月時点で  
四百四名の方が登録されています。  
専攻毎では、哲学三十名、社会  
八十八名、行政八十七名、心理  
八十二名、心障四十二名、学校教育  
七十五名です。以前から懸念されて  
いたことですが、高齢化に伴い会員  
数が漸減しています。本部とも連携  
し新卒者への告知活動を強化する等  
拡大努力をしておりますが苦戦して  
いるのが現状です。お知合で未加入  
の同窓生には是非加入を勧めくださ

### 編集後記

▼今年の夏も、甲子園の高校野球が  
いくつもの熱いドラマを生んだ。プ  
ダベストの世界水泳、ロンドンでの  
世界陸上などの競技に手に汗握った方  
も多かったのでは。リオ五輪に続き、  
世界のトップで活躍する日本の若手  
選手の層の厚さは、科学の力ばかり  
でなく、持続的な育成にも支えられ  
ている。広島、長崎の原爆の日から  
72年。原爆の悲惨さを伝えていく人  
たちは年々減ってきている。しかし、  
若者たちは語り継ぐようと積極的に関  
わり始めた。▼70年代前半のフォーク  
ソング『戦争を知らない子供たち』  
に、「髪の毛が長いと許されないな  
ら…」とある。当時の川内教育課で

さい。加入希望者をお知らせ頂けれ  
ば事務局がフォロー対応致します。  
(五)「第十五回総会・懇親会」予告  
平成元年に発足した私共の教育学  
部関東地区同窓会も来年七月で三十  
周年を迎えます。これまで会を支え  
て下さった会員の皆様に厚く御礼申  
上げます。現在、平成三十年十一  
月四日(日)午後一時から総会・懇  
親会を実施すべく計画を進めており  
ます。詳細は来年ご案内の予定です。

も、長髪は自由と抵抗の印。大人た  
ちにとっては、反抗的な「最近の若  
いもん」の象徴。大人たちの多くは  
戦争体験世代、若者たちはその子供  
世代。当時は、思想的な面に焦点が  
置かれ、価値観の相違がことさら強  
調されていたように思われる。▼あ  
の頃の「戦争を知らない子供たち」  
は高齢者世代となった。立ち位置は  
変わったが、「最近の若いもん」と  
の対峙ではない新たな協力関係が築  
かれてるように思われる。今号で  
往時を振り返り一文を取り上げてい  
ただく機会を得て、そんなことを考  
えた。「きょうかん」にも若い会員  
が加わって、新たな交流が生まれ  
ていくことを期待したい。

(事務局 小林)